

事務所名	中 部	学校名	北上市立江釣子中学校	TEL	0197 - 77 - 2931
------	-----	-----	------------	-----	------------------

生徒の実態に即した全教員による具体的な共通実践

1 ねらい

各種調査結果をもとに、学力に関する課題を把握し、課題解決に向けて具体的に共通実践を図ることにより、成果について検証する。

2 具体的な取組

(1) 実態を知る（課題把握）

ア 授業改善の実践について

校内研究の研究主題を「基礎・基本の確かな定着」を根底に設定し、各教科の研究授業の実践に努めてきた。また、諸調査の結果については教科ごとに分析を行い、事後指導に役立てるよう取り組んできた。しかし、全教員の共通理解のもと、課題の焦点化を図り、具体的、効果的な教科指導法について研究を進める校内体制が十分に確立されているとは言い難い状況にあった。

イ 授業の目標の理解について

昨年度の県学調質問紙の結果から、授業の目標を分かって授業を受けている生徒の割合が県の平均値よりも低い実態が明らかとなった。

◆ H25 県学調の質問紙 No.6 「普段の授業で、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を確認していると思いますか。」

	1 学年				2 学年			
	本 校	22	48	24	6	12	45	31
県	31	46	17	6	26	46	19	8

そう思う／どちらかといえばそう思う／どちらかといえばそう思わない／そう思わない

- ・ 1 学年：「そう思う＋どちらかと言えばそう思う」→70%（県より-7%）
- ・ 2 学年：「そう思う＋どちらかと言えばそう思う」→57%（県より-15%）

(2) 共通実践を図る（課題解決）

ア 校内研究の活性化について

授業の目標を分かって授業を受ける生徒の割合について、課題解決を図るため「本時の課題を明示する」という基本的な取組を校内研究の重点の一つに取り入れて全教科で取り組むこととした。

また、各種調査の結果については、各教科の平均正答率や分野ごとに定着が不足している箇所を集約し、全教員で共通理解を図るため、職員会議や校内研究会等で提示して共通理解を図った。各教科においては、授業における補充問題として、あるいは家庭学習の課題として扱うなど、計画的に事後指導に役立てることとした。

イ 一人一研究授業の実践について

今年度より、全教員が自分の教科の指導法の改善を図ることをねらいとして、学習指導案（略案）を作成し、年度内に一度は研究授業（名称「私の工夫の1時間」）を行うこととした。なお、授業を行う際には、校内研究の主題に関わるか、あるいは各種調査結果の分析から、落ち込みの激しい分野に重点を置いて授業を行うか、のどちらかを選択して実施するよう計画を立てた。

【校内研究計画】
(1) 研究の内容（※印が重点）
<input type="checkbox"/> 基礎的・基本的内容の洗い出し
※ <input type="checkbox"/> 学習課題設定の工夫
※ <input type="checkbox"/> 場を設定した指導の構想(定着の場、表現の場)
<input type="checkbox"/> 基本的な学習過程の立案と授業実践による検証
※ <input type="checkbox"/> 家庭学習の見直し（授業の中でその日や週の取組について指示）
<input type="checkbox"/> 研究のまとめと次年度の方向性の確認
(2) 研究の方法
<input type="checkbox"/> 先進校の研究紀要、及び文献による研究
<input type="checkbox"/> 質問紙等による調査
<input type="checkbox"/> 授業実践と観察法
※ <input type="checkbox"/> 校内における実践交流
・ 教員同士の実践や成果を交流、継続的な指導法の改善
・ 「私の工夫の1時間」として、教科・道徳・学活の授業提供

《実践例：2 学年数学科（H26.7.12 第 1 校時）》

昨年度の県学調の結果から「連立方程式」の文章問題について補充する授業を行った。授業の進め方は、県教育委員会作成の「平成 25 年度学習定着度状況調査指導資料 授業改善の手引 中学校第 2 学年数学 H25.12 発行」をもとにして行った。

問題 1 H25 学習定着度状況調査問題（県正答率 70 %）

連立方程式 $2x+3y=4$ …ア $x-2y=-5$ …イ の解である x 、 y の値の組についての説明として、正しいものはどれですか。答えは□ □から 1 つ選び、その番号を書きなさい。

- 解 x 、 y の値の組は、ア、イのどちらの式も成り立たせない。
- 解 x 、 y の値の組は、アの式のみ成り立たせる。
- 解 x 、 y の値の組は、イの式のみ成り立たせる。
- 解 x 、 y の値の組は、ア、イのどちらの式も成り立たせる。

問題 2 H25 学習定着度状況調査問題（県正答率 82 %）

連立方程式 $4x+3y=13$ $x+3y=10$ を解きなさい。

問題 3 H25 学習定着度状況調査問題（県正答率 42 % 無答率 25 %）

倉庫にパイプイスが 100 脚あります。これを 1 回に 4 脚ずつまたは 5 脚ずつ運ぶと、23 回ですべてのイスを運び終わりました。4 脚ずつ運んだ回数と 5 脚ずつ運んだ回数はそれぞれ何回ですか。

この問題を解くのに、4 脚ずつ運んだ回数と 5 脚ずつ運んだ回数を 2 種類の文字で表して、連立方程式を作りなさい。

○本時の目標『問題 3 を解けるようにする』

そのために必要なこと

- 問題 1 の連立方程式の解の意味を理解すること。
- 問題 2 に類似した連立方程式を解けること。→この 2 つが絶対条件。
- とらえた 2 つの数量の関係を式で表すことができること。
- 正しい解答の仕方を身につけること。

○本時の展開

【導入】復習問題で連立方程式の解き方（加減法）を確認する。…□

【展開】問題文からとらえた 2 つの数量の関係を式であらわす。

式を読み取り、数量の意味をとらえる活動をする。…□

連立方程式の解の意味を理解し、2 つの式の条件に当てはまる解を導く。…□

正しい書き方で連立方程式の文章問題を解く。…□



ウ 確かめテストの工夫について

【江中チャレンジ検定】

1 ねらい

生徒の定着が落ち込んでいる部分（あるいは定着の落ち込みが予想される部分）に焦点を当てて、その分野の強化を目的にして取り組む。

2 期 日

- ・国語 6月 5日（5月28日までに範囲提示）
- ・数学 6月11日（6月3日までに範囲提示）
- ・英語 6月19日（6月11日までに範囲提示）
- ・社会 10月 6日（9月30日までに範囲提示）
- ・理科 10月16日（10月9日までに範囲提示）

3 方 法

- ・3年生は昨年度の県学調 2 年時の結果から落ち込んでいる部分を探す。
- ・2年生は昨年度の県学調 2 年の問題を参考にして対策を考える。（国・数・英については 1 年時の資料あり）
- ・1年生も国・数・英は昨年度の県学調 1 年の問題を参考にして対策を考える。（社・理については授業で学習した内容から）
- ・各学年の教科担任は、上記のことを参考にして生徒に取り組みさせる内容を決める。
- ・何を学習したらよいか、あるいは学習プリント等を示し、生徒に一定期間（1週間前）取り組みさせる。

各教科担任が作成し、期末テスト及び中間テストとして実施する定例試験問題とは別に、生徒会の学習委員会が主体となって行う校内独自の「確かめテスト」（名称「江中チャレンジ検定」）に改善を図り、実施することとした。昨年度までは、生徒の教科に対する興味関心を高めることをねらいとし、実施教科も 3 教科（国・数・英）としていたが、今年度は、5 教科（国・社・数・理・英）とし、全教員の共通理解のもと、各種調査結果において落ち込んでいる分野を範囲として実施した。各教科担任は、昨年度の県学調で本校が落ち込んでいる箇所を洗い出し、テスト問題を作成した。また、事前学習用の練習シートも作成し、生徒に 1 週間ほど事前学習に取り組みさせるようにした。

なお、テスト終了後は、学習委員会が採点を行い、集計結果については、平均正答率や合格者数（80 点以上）など委員会通信に掲載することとした。

《例：各教科の分析内容（国語・英語）》

教科	学年	どの部分を取り上げたか
国語	1 学年	昨年度の県学調 1 年国語の問題から、漢字の問題を抜粋して出題した。
	2 学年	昨年度の県学調の言語事項にかかわる問題（漢字の読み書き、慣用句、文法）で、1 年生の問題と 2 年生の既習事項を出題した。
	3 学年	昨年度の県学調 2 年の問題から、文の成分、文節の関係、熟語の組み立てを取り上げた。
英語	1 学年	昨年度の県学調から、be 動詞の疑問文と否定文について取り上げた。
	2 学年	昨年度の県学調 2 年の結果から、不規則動詞と ~ ing 形を取り上げた。
	3 学年	昨年度の県学調より不規則動詞を書かせる問題を取り上げた。

3 成果

(1) 校内研究の活性化について

本校生徒の実態を把握し、課題解決に向け、共通実践することの重要性を教員全体で意識することができた。特に「学習課題提示の工夫」を研究の重点に据え、計画的に授業に位置づける取組を行った結果、授業の目標が分かる生徒の割合が高くなり、具体的に改善を図ることができたと言える。

◆ H25・H26 県学調の質問紙 No. 6 「普段の授業で、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を確認していると思いますか。」

	1 学年				2 学年			
	23	51	20	6	35	42	19	4
H26 江中	23	51	20	6	35	42	19	4
H25 江中	22	48	24	6	12	45	31	13

そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない

- ・ 1 学年：「そう思う+どちらかといえばそう思う」→ 74 % (H25 より + 4 %)
- ・ 2 学年：「そう思う+どちらかといえばそう思う」→ 77 % (H25 より + 20 %)

(2) 一人一研究授業の実践について

各種調査結果の分析結果をもとにして、各教員が研究授業に取り組むことにより、各教科で指導する内容を焦点化することができた。授業改善、指導力の向上及び質の高い授業をしていきたいという意識の高揚も見られはじめている。

また、今回の数学科の研究授業では、岩手県教育委員会が作成した指導手引きを使用し、一定の成果が見られるなど、実態に即した各教材等の効果的な活用法についても認識を深めることができた。

◆ H25・H26 県学調 2 年数学「文章題から連立方程式を立式することができる。」の問題の正答率

	2 年数学正答率	無答率
H26 江中	68.1 %	5.8 %
H25 江中	35.1 %	31.5 %

(3) 確かめテストの工夫について

各種調査結果を全校での取組に活用することにより、学年ごとに生徒に共通して補充する学習を実施できた。

また、生徒会の委員会活動の一つとして学級ごとの正答平均点や合格者（80 点以上）の人数を生徒会の学習委員会通信に載せ、取組の意欲を引き出すようにしたのは効果的だった。なお、教員にとっても個々に授業で補充指導に取り組むほかに、学校全体で共通して取組ができたことは成果の一つと言える。

◆ H25・H26 県学調 2 年英語「不規則動詞を正しく書く」と「ing 形を正しく書く」の問題の正答率

	「不規則動詞を正しく書く」	「ing 形を正しく書く」
H26 江中	37.8 %	41.2 %
H25 江中	11.7 %	9.9 %